



お客様に評価され、選ばれる製品を開発します

「ブラザーの技術力」は顧客価値創出力

ブラザーグループでは、固有の技術を生かしてお客様の求める製品・サービスを生み出すことが真の技術力であると考えています。それは優れた技術は製品に生かされてこそ価値が生まれると考えるためです。お客様に評価され選ばれる製品を提供するために、ブラザーグループの技術者はお客様と向き合い、お客様の声に真摯に耳を傾けています。そして、お客様が喜ぶ顔をどんな技術で実現するか、どんな製品でお客様の役に立つことができるかを常に考えながら価値創造に取り組んでいます。

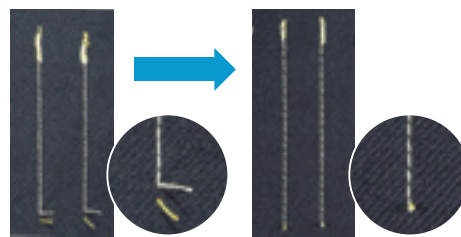


CASE 常識を打ち破る開発メンバーの挑戦

縫製工場など工業用マシンの中で最も使用されている直線縫いを行う本縫いマシン。その構造は、部分的に改良が加えられてきたものの、誕生以来、大きな変化はありませんでした。

高速で動く本縫いマシンでは、針動作と布送り動作を各々のモーターで動かすことが難しく、布送り機構の電子化は不可能とされてきました。しかし、最新の本縫いマシン「NEXIO(ネクシオ)S-7300A」は、針動作の駆動モーターから布送りを切り離し、単独モーターで駆動させることで布送り機構の電子化を実現し、送り歯の動きを自在にコントロールできるようになりました。この技術により、縫製する生地に合わせて高い縫製品質を提供できるようになりました。さらに糸きり機構も一新し、縫製物の糸残りの長さを短くおさえることで縫製工場の糸摘み工程の削減に貢献できるようになりました。

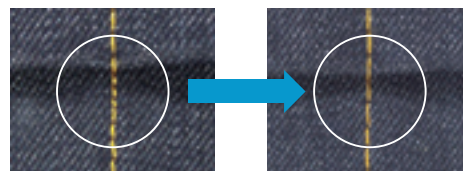
布が重なる部分(段部)の縫製は、従来、針折れや縫い目の詰まりが起きやすいため、作業者は縫製速度を大幅に落としていました。しかしその作業には熟練が必要で、生産性低下の一因でもあったのです。布送り機構を電子化し、段部検出センサーを搭載することで、段部では自動で縫製速度を緩め、布送りの動きと針の縫い目幅を補正する制御を可能にしました。それによって、縫い目の縮み・針折れを抑え、さらに、非熟練者でも均一できれいな縫い目に仕上げることが可能になったのです。



従来機

NEXIO S-7300A

余分な糸残りを減らし、生産性向上に貢献



従来機(段部で目が詰まる)

NEXIO(安定したピッチ)

縫製時の目詰まりを低減